

社協たかもり

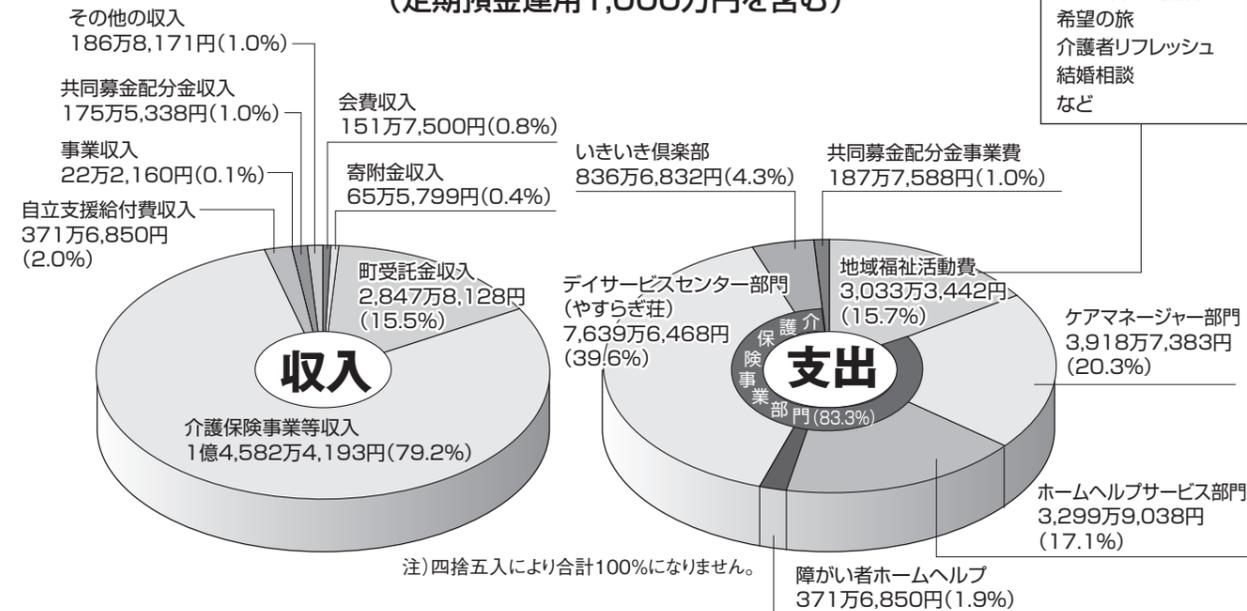
※社協だよりは町民の皆さんからの会費により発行されています。



高森町社会福祉協議会 平成29年度 決算・事業報告

平成29年度 一般会計決算

収入 1億8,403万8,139円
 支出 1億9,287万7,601円
 収支差額 -883万9,462円
 (定期預金運用1,000万円を含む)



ボランティアセンター
ひとり暮らし支援
希望の旅
介護者リフレッシュ
結婚相談
など

29年度の主な事業報告

○地域福祉の取り組み

生活体制支援整備事業、一人暮らし高齢者支援、希望の旅事業、ボランティアセンター等における福祉活動支援、ボランティア育成事業、お助けマン事業、福祉学習の企画協力、防災支援事業、介護者リフレッシュ事業、かいごの教室開催、地区ふれあい広場の共催

○介護予防事業

総合事業（訪問型サービスA・通所型サービスA「いきいき倶楽部」）

○介護保険事業

ケアマネージャー、ホームヘルパー、デイサービスによる介護サービス

○相談事業

生活福祉資金貸付事業、結婚相談事業、日常生活支援事業

○共同募金の福祉事業への配分



福祉学習



介護予防事業

認知症サポーター養成講座開催！

6月14日(木)、社協主催のお助けマン研修として認知症サポーター養成講座を開催、一般の方を含め25名の方が参加してくださいました。

冒頭、講師役であるキャラバンメイトから「認知症サポーターは特別なことをする人ではありません。認知症を正しく理解して、認知症の方やそのご家族を温かく見守ることがスタートです。その方たちの応援者と思って下さい。」と説明がありました。

前半は、認知症の原因や症状についてイラストを交えて説明したり、認知症と物忘れの違いをクイズ形式で出題するなど、初めての人も分かりやすい内容で認知症について理解を深め、後半はキャラバンメイトによる寸劇で認知症の方への接し方を学びました。最後はグループワークでお互い感じたことを話し合い、認知症の方の気持ち、それを取り巻く家族や周囲の方の気持ちを共有して、90分間の講座は終了。受講者全員に認知症サポーターの証としてオレンジリングが手渡されました。

認知症サポーターであふれる町は、認知症の方にとって暮らしやすい町、困っている人に差し伸べられる手がある、誰にとっても住みやすい町とも言えると思います。2025年には、65歳以上の5人に1人が認知症を発症すると推計されており、誰にとっても他人事では済まされなくなる状況がすぐそこに迫っています。

皆さんの地域や常会、組合、グループでも、認知症について学んで、認知症サポーターの輪を広げてみませんか？



オレンジリング

【認知症サポーター養成講座 お問い合わせ先】
高森町地域包括支援センター
電話：35-9412

キャラバンメイトとは…
認知症サポーター養成講座を開催し、講師役を務める人を指します。キャラバンメイトになるには、所定の研修を受講し登録をする必要があります。
認知症サポーターの養成は、厚生労働省の認知症施策「新オレンジプラン」に掲げられています。



親愛の里紙ふうせんの皆さんによる草取りボランティア

5月18日(金)、今年も親愛の里紙ふうせんの皆さんがボランティアでやすらぎ荘の草取りをしてくださいました。朝から強い日差しが照り付ける暑い日でしたが、20名ほどの皆さんが汗を流しながら一生懸命作業を進めてくださり、2時間ほどで花壇や畑が見違えるようきれいになりました。

親愛の里紙ふうせんの皆さん、本当にお世話になりました。ありがとうございました。



今年もポチュラカの苗をいただきました！

下市田のダイアナクリスタルさんより、今年もたくさんのポチュラカの苗をいただきましたので、6月8日(金)の午後、やすらぎ荘の皆さんに植え付け作業を行っていただきました。

穴を掘る人、ポットから苗を出す人、植え付けをする人、座って指示する人、と見事な連携プレーで、花壇にはすっかりきれいに苗が植えられました。ポチュラカの花言葉は、「いつも元気」とのこと。福祉に携わるものとして、常に心に留めておきたい言葉のひとつです。

ダイアナクリスタルさん、やすらぎ荘の皆さん、本当にありがとうございました。



高森町社会福祉協議会

電話34-3717 FAX35-9589 Eメール t-shapc1@takamori.ne.jp
ホームページ http://www.takamori-shakyo.com/

お得な情報満載！

高森社協 検索

